



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

チュニジア・アルジェリア：アルジェリア軍、チュニジアとの隣接地域の油田周辺でイスラーム過激派を掃討

2014年12月16日付『ハヤート』紙は、15日にアルジェリア東部のワルグラ県でアルジェリア軍がテロ集団と交戦、アルジェリア軍が近隣の石油施設の従業員を退避させたと報じた。報道によると、大兵力を投入してテロ集団の捜索を行っており、彼らは隣国チュニジアのカスリーン県から来たものであると考えられている。また、「テロリスト」がアルジェリアとチュニジアとの間を行き来して逃亡するとの疑いがもたれている。



出典：http://www.worldmapfinder.com/GoogleMaps/Jp\_Africa\_Tunisia.html

チュニジア西部の山岳地帯では、イスラーム過激派の武装集団による襲撃やチュニジアの治安部隊との戦闘が相次いでおり、最近では「ウクバ・ベン・ナーフィウ部隊」を名乗る団体がインターネット上で作戦行動や構成員の殉教についての情報を投稿するようになっている。15日には、同派を名乗る者がチュニジア軍との戦闘により構成員5名が殉教したと主張する声明が見つかった。声明は、同派に対する掃討がチュニジア軍、アルジェリア軍、アメリカ軍を動員したものであるとし、自派の要員は安全な場所に退避したと主張している。その上で、チュ

ニジアの内相、大統領に報復を宣言した。

## 評価

報道と声明の内容を見る限り、「ウクバ・ベン・ナーフィウ部隊」がアルジェリアの石油施設への攻撃を企画しているとの直接的な兆候は感じられない。

その一方で、チュニジアでは「アラブの春」による政変以降取締りが弛緩し、シリアへの戦闘員の勧誘・送り出しやイスラーム過激派の武装勢力の活動が活発化していた。その中で、「ウクバ・ベン・ナーフィウ部隊」は、2014年夏ごろから声明などの発表が活発化した団体である。この活動は、イラク、シリアでの「イスラーム国」がカリフ制樹立を僭称した後、マグリブのイスラーム過激派やその支持者の間でも「イスラーム国」に対する立場の表明が議論を呼んだころと同じ時期のものであり、チュニジア・アルジェリア方面でのイスラーム過激派諸派の間での「イスラーム国」への対応をめぐる動揺を反映した活動と考えることができる。

アルジェリアでは1990年代からイスラーム過激派武装勢力が活動していたが、石油関連施設・人員・企業に対する攻撃が多発しているわけではない。こうした中、伝統的なイスラーム過激派組織である「イスラーム的マグリブのアル=カーイダ」の活動が低迷し、アイン・アミナース（イナメナス）事件を引き起こしたとされる「ムラービトゥーン」の分裂が起きるなど、マグリブにおけるイスラーム過激派の活動に変化が生じている。9月に発生したフランス人の誘拐・斬首事件など、「イスラーム国」の樹立宣言や「アラブの春」後の治安の悪化後に現れたイスラーム過激派諸派が、既存の団体とは異なる情勢認識や目的意識を持ち、攻撃対象などについてこれまでとは異なる行動をとる可能性に警戒が必要である。

（イスラーム過激派モニター班）

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799